

## 大阪市教育委員会博物館群

### 6館の使命

【前言】大阪市は昭和11年(1936)の美術館の開設以来、長年にわたって多様な博物館・美術館を設置しその充実を図ることで、一都市としては傑出した博物館群を築き上げてきた。これらの館が蓄積してきた館藏品や知識・経験を活かしつつ相互の連携を図ることで、利用者にとって新たな魅力を創出し、学習や交流の拠点となることを目指し、博物館群としての使命を次のとおり定める。

#### 1. 芸術・文化や自然・科学など幅広い分野の専門館等が【主体】

歴史博物館、美術館、東洋陶磁美術館、自然史博物館、科学館、近代美術館建設準備室、文化財協会が主体となり、必要に応じてその他の生涯学習施設等とも連携。

#### 2. 広く市民や来阪者等を対象に【対象】

利用者の1/3を占める市民はもちろんのこと、日本各地はもとより、アジアをはじめとした外国からの来阪者。また、青少年、高齢者、障害者、乳幼児の保護者、外国人、さらにインターネット経由など、さまざまな利用者を対象とする。

#### 3. わかりやすく楽しめる方法を工夫しながら【素材と手法】

永年の蓄積を活かし、確実な情報及び研究に基づく正確な資料を用いる。実物資料に加えて映像・音声、ITなどさまざまな手法・技術を利用する。読みやすさや判りやすさの工夫。体験講座、実演会など本物に触れ、体験できる機会の充実と安全確保に努める。

#### 4. 連携による総合的な情報発信や効果的な事業を行うことで【連携効果】

ポータルサイトによる一元的情報提供や他館情報とのリンク。共同広報の展開や共通利用券の導入。合同展覧会、複数館の連携展示、他館の展示支援。共同調査・研究の推進。共同(あるいは他館の支援を得た)講演会・イベントの開催。

#### 5. 利用者にとってより魅力的で、学習や交流の拠点となる博物館群を目指す【目標】

大阪らしさの提供。満足度(C.S.)の向上。NPO・ボランティア・友の会などによる市民参画。利用者・職員・設置者・専門家・その他の意見を取込んだ点検・評価と活動へのフィードバック。こうした事業を6館+1法人が連携して行うことで、「利用者にとってより魅力的で、学習や交流の拠点となる」博物館群を目指す。

平成18年3月22日

大阪市教育委員会